

硬膜外麻酔による無痛分娩

① 方法

背中から特殊な針を刺します。その針の内部に細い管（カテーテル）を滑り込ませ留置後針を抜きます。カテーテルはテープで固定しますので自由に動くことはできます。ただし麻酔薬投与後は転倒防止の為、分娩後麻酔が切れるまで分娩台で過ごしていただきます。分娩促進剤（内服薬、点滴、バルーン）を使用し陣痛を起こし、ある程度子宮口が開いた時点でカテーテルから麻酔液を注入します。

薬が切れ、痛みが増強すれば随時、麻酔液を注入します。

② 副作用

低血圧（とそれに伴う胎児心拍低下）、吐き気、分娩時間の延長、吸引分娩の増加。

③ 合併症

放散痛、偶発的硬膜穿刺による頭痛、呼吸停止、意識消失、感覚障害、運動障害

④ その他

- 1) 上記の医療処置、緊急時対応に備え、当院ではあらかじめ日時を決める「計画無痛誘発分娩」のみ行っております。原則、診察日かつ日中（9時～17時）に麻酔を使用しますので、分娩時刻が大幅に時間外に及ぶ場合、無痛分娩ができません。
- 2) 入院日は当院から指定させて頂きます。予定入院日は以外の無痛分娩ができません。
- 3) 薬剤使用中の胎児心拍レベルの悪化や、急速な分娩進行など、安全な分娩を優先するにあたり、無痛分娩ができないことがあります。
- 4) 麻酔薬投与は最大で分娩予測時刻の4～5時間前に行います。安全性と徐陣効果を保つため、それ以前から麻酔薬を使うことは推奨しません。
- 5) 「計画無痛誘発分娩」のために入院されても、諸般の事情により麻酔薬を使用しなかった場合には、無痛分娩費用は請求致しません。ただし入院に付随するその他の処置費用・個室費用発生いたしますのでご了承ください。

以上説明を受け、硬膜外麻酔による無痛分娩に同意します。

年 月 日 妊婦氏名